

台風第10号に対する農作物の当面の技術対策について

令和6年8月30日
大里農林振興センター

熊谷市、深谷市、寄居町では8月下旬からゲリラ豪雨を含めた降雨が続いており、8月30日現在も台風第10号による降雨が続いております。

露地の作物を中心に被害の発生が心配されますので、技術資料を作成しました。今後の管理作業の参考にしてください。

ね ぎ

- 1 停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、速やかに排水する。
- 2 天候が回復次第、軟腐病・白絹病等を対象に速やかに薬剤散布を行う。
- 3 収穫期のほ場では、高温多湿による軟腐病が拡大する前に、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。

【薬剤例】

軟腐病	ヨネポン水和剤	(収穫7日前まで/4回以内)
軟腐病	スターナ水和剤	(収穫7日前まで/3回以内)
白絹病	セイビアーフロアブル20	(収穫前日まで /3回以内)
白絹病	カナメフロアブル	(収穫前日まで /4回以内)

ブロッコリー

- 1 風雨により軟腐病、黒腐病等の発生が懸念されるので、薬剤散布を行う。
- 2 天候が回復次第、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 3 土壌が流亡した場合は、株の姿勢を修正し、株元に軽く土寄せを行って倒伏やねじれを防ぐ。

【薬剤例】

軟腐病・黒腐病	バリダシン液剤5	(収穫前日まで /3回以内)
軟腐病	ジーファイン水和剤	(収穫前日まで /散布回数制限なし)
黒腐病	カセット水和剤	(収穫14日前まで/2回以内)
黒腐病	Zボルドー	(使用前日数・散布回数制限なし)

な す

- 1 停滞水に伴う根の活力低下が青枯病、半身萎凋病等の発生を助長するので、速やかに排水する。

- 2 台風通過後は褐色腐敗病、灰色かび等が発生しやすいので、速やかに薬剤散布を行う。
- 3 風雨でキズなどが発生し商品価値が低下する果実は速やかに摘果し、草勢の回復を図る。
- 4 新葉が展開し草勢の回復が見られたら、速効性肥料で窒素成分 2 kg/10a 程度の追肥を行う。

【薬剤例】

褐色腐敗病	フォリオゴールド	(収穫前日まで/3回以内)
褐色腐敗病	ライメイフロアブル	(収穫前日まで/3回以内)
灰色かび病	パレード20フロアブル	(収穫前日まで/3回以内)
灰色かび病	フルピカフロアブル	(収穫前日まで/4回以内)

大豆

- 1 降雨によりべと病が発生しやすいので薬剤散布を行う。
(8月27日発表「埼玉県病害虫防除所病害虫発生予報第5号(9月予報)において、べと病の発生が「やや多い」と公表)

【薬剤例】

べと病	ランマンフロアブル	(収穫7日前まで/3回以内)
べと病	プロポーズ顆粒水和剤	(収穫21日前まで/2回以内)
べと病	ジマンダイセン水和剤	(収穫45日前まで/3回以内)

花植木(露地切り花や鉢物・苗物、植木類)

- 1 降雨による泥の跳ね返り、土壌水分の高まりによる湿度上昇は、斑点病や灰色かび病等の感染リスクが高まるので、速やかに薬剤散布を行う。

【薬剤例】(花き類、観葉植物で登録)

斑点病	ダコニール 1000	(発病前～発生初期/6回以内) (高温時の花卉の退色に注意)
灰色かび病	アフエットフロアブル	(発病初期/3回以内)
	セイビアーフロアブル 20	(発病前～発生初期/4回以内)
立枯病	オーソサイド水和剤 80	(散布時期なし/8回以内)
菌核病	トップジンM水和剤	(散布時期なし/5回以内)

- 農薬を使用する際は必ず使用農薬のラベルを確認してください。
- 同じ薬剤、同じ作用機構分類の薬剤の連用は避け、飛散に注意して散布を行ってください。
- 栽培記録簿等の農薬チェック表を事前によく見て、散布回数等をよく確認してください。